

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3120434号
(U3120434)

(45) 発行日 平成18年4月6日(2006.4.6)

(24) 登録日 平成18年3月15日(2006.3.15)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 0 K 37/00 (2006.01)

B 6 0 K 37/00

F

B 6 0 J 3/00 (2006.01)

B 6 0 J 3/00

Z

B 6 0 R 13/02 (2006.01)

B 6 0 R 13/02

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2005-9783 (U2005-9783)
(22) 出願日 平成17年11月21日(2005.11.21)(73) 実用新案権者 505431499
有限会社アトラス
愛知県犬山市上野字郷1492
(74) 代理人 100080045
弁理士 石黒 健二
(72) 考案者 洞谷 治夫
愛知県犬山市犬山字東古巻300番地の1
7

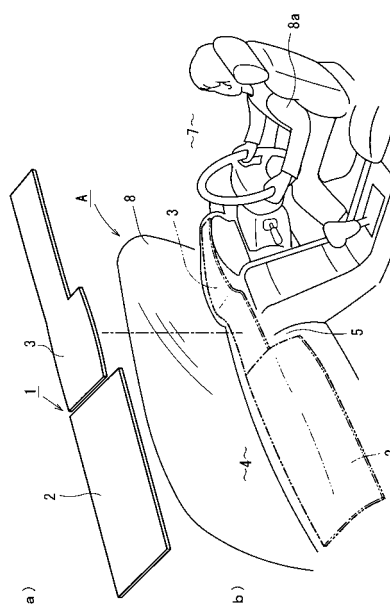
(54) 【考案の名称】 遮光用敷布

(57) 【要約】

【課題】鏡面現象などによりウインドシールドガラスに生じる反射光を簡素な構造で遮断し、乗員の良好な視野を維持するとともに、眼の疲労を軽減して安全運転に寄与する遮光用敷布を提供する。

【解決手段】ダッシュボード5に敷く吸光シート2、3を黒系の色調とすることにより、乗員8aの前方にあるウインドシールドガラス8に対するダッシュボード5からの反射光を遮断する。このため、走行時に車室4内のダッシュボード5から鏡面現象などに起因して、ウインドシールドガラス8に反射光が生じることがない。この結果、乗員8aの良好な視野を維持するとともに、眼を疲労から保護して安全運転に寄与する。これには、簡素な構造の吸光シート2、3をダッシュボード5に敷くだけでよく、安価な製造費で高い普及率が期待できる。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

車室内で所定の使用対象物に敷かれて前記車室内の光を吸収する吸光シートを備え、前記吸光シートを黒系の色調で加工することにより、前記車室内で乗員の前方にあるウインドシールドガラスに対する前記使用対象物からの反射光を遮断することを特徴とする遮光用敷布。

【請求項 2】

前記吸光シートは、前記車室内のダッシュボード上に敷かれるようになっており、その裏面には、前記ダッシュボードに対する滑止め処理が施されていることを特徴とする請求項 1 に記載の遮光用敷布。

【請求項 3】

前記吸光シートは、前記車室内のダッシュボードに形成された細長スリットから内部に格納可能に設けられており、

使用時に前記吸光シートを前記細長スリットを介して引き出し、前記ダッシュボード上に敷かれるようになっていないことを特徴とする請求項 1 に記載の遮光用敷布。

【請求項 4】

前記吸光シートは、座席に着座する乗員の膝部に載せる矩形の膝掛け部を前記使用対象物として有し、前記膝掛け部の左右に形成した折曲辺部およびファスナーを介して前記座席の左右の側面部に着脱可能に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の遮光用敷布。

【請求項 5】

前記吸光シートは、座席に着座する乗員の膝部に載せる矩形の膝掛け部を前記使用対象物として有し、前記座席の側面部に設けられたスリットを介して内部に格納可能になっており、使用時に前記スリットを介して前記膝部に引き出されるようになっていないことを特徴とする請求項 1 に記載の遮光用敷布。

【請求項 6】

前記吸光シートは、左右の辺部にファスナーを設けた複数の矩形布からなり、前記矩形布同士を前記ファスナーを介して連結することにより、前記矩形布が前記使用対象物に応じた形状に組合せ可能となっていることを特徴とする請求項 1 に記載の遮光用敷布。

【請求項 7】

前記吸光シートは、収納筒内にスクロール状となって心棒に巻回されており、使用に伴って前記吸光シートを前記収納筒から引出し、使用後に前記心棒を回すことにより、前記吸光シートが前記心棒に巻き取られることを特徴とする請求項 1 に記載の遮光用敷布。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、車室内で敷かれ、ウインドシールドガラスからの反射光を乗員に対して遮断する遮光用敷布に関する。

【背景技術】**【0002】**

自動車の走行時、車室内外の外観物が鏡面現象などにより、ウインドシールドガラスに微妙な反射光として生じることがある。この場合、車室内の乗員、とりわけドライバーは、ウインドシールドガラスに生じる様々な鏡像などが連鎖的に視界に取り込まれるため、視野が妨げられることをよく経験する。

この時、ドライバーは、視野が乱されて良好な視野が得られなくなるとともに、眼の疲労を伴うことがある。乗員の良好な視野が乱されると、対向車両、自転車あるいは歩行者などに対する視認性が損なわれて安全運転を危うくする虞れがある。このことは、特に長時間運転する職業ドライバーにとって、安全走行を確保する上で深刻な問題となる。

【0003】

光を抑える遮光用シートとしては、光の反射率が高く、光吸収率が低い不織布を所定の

10

20

30

40

50

加工方法で処理し、光の反射率を低下させたものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

この不織布では、長繊維のフィラメントが高密度で接合されており、光反射率が 90 % 以上で、光吸収率が 1 % 以下になっている。このため、遮光用シートは、不織布の一部に熱および圧力を加え、光の反射率を低下させることで透明化したシート状に形成されている。

【特許文献 1】特開平 10 - 84794 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 の遮光用シートは、観葉植物や植物の栽培地について園芸や農業部門で使用されるもので、光の遮光率を低下させて透過率を高めるため、熱処理により透明や半透明の部分が必要になっている。 10

このため、この種の遮光用シートを車室内で敷いても、透明や半透明の部分が光を反射してウインドシールドガラスに鏡面現象などによる反射光を生じさせる。この結果、走行時にドライバーの視野を乱す虞れが依然として残り、良好な視野が損なわれて安全運転に支障を来す虞れがある。

【0005】

本考案は上記の事情を考慮してなされ、その目的は走行時、鏡面現象などに起因してウインドシールドガラスに生じる反射光を簡素かつ安価な構造で防ぐことができ、乗員の良好な視野を維持するとともに、眼を疲労から保護して安全運転に寄与する遮光用敷布を提供することにある。 20

【課題を解決するための手段】

【0006】

（請求項 1 について）

本考案の遮光用敷布では、車室内で所定の使用対象物に敷かれて車室内の光を吸収する吸光シートを備えている。吸光シートを黒系の色調で加工することにより、車室内で乗員の前方にあるウインドシールドガラスに対する使用対象物からの反射光を遮断する。

この構成では、走行時に使用対象物から鏡面現象などにより、ウインドシールドガラスに反射光が生じることがない。このため、乗員の視野が乱れず、良好な視野を維持するとともに、眼を疲労から保護して安全運転に寄与する。 30

使用対象物からの反射光を遮断するには、簡素な構造の吸光シートを使用対象物に敷くだけでよく、製造費が安価になるため、吸光シートの高い普及率が期待できて社会的意義も大きくなる。とりわけ、昼夜を問わず長時間運転する職業ドライバーにとって、吸光シートは安全走行を確保する上で大きな意義を有するようになる。

【0007】

（請求項 2 について）

吸光シートは、車室内のダッシュボード上に敷かれるようになっており、その裏面には、ダッシュボードに対する滑止め処理が施されている。

このため、走行時にダッシュボードが揺れても、吸光シートがダッシュボードから滑り落ちることなく、吸光シートの良好な載置状態を維持することができる。 40

【0008】

（請求項 3 について）

吸光シートは、車室内のダッシュボードに形成された細長スリットから内部に格納可能に設けられており、使用時に吸光シートを細長スリットを介して引き出し、ダッシュボード上に敷かれるようになっている。

このため、不使用時には、吸光シートを細長スリットを介してダッシュボードの内部に格納しておくことができる便宜がある。

【0009】

（請求項 4 について）

吸光シートは、座席に着座する乗員の膝部に載せる矩形の膝掛け部を使用対象物として 50

有し、膝掛け部の左右に形成した折曲辺部およびファスナーを介して座席の左右の側面部に着脱可能に設けられている。この場合、ウインドシールドガラスに対する膝部からの反射光が遮断されるため、請求項 1 と同様な効果を奏する。

【 0 0 1 0 】

(請求項 5 について)

吸光シートは、座席に着座する乗員の膝部に載せる矩形の膝掛け部を使用対象物として有し、座席の側面部に設けられたスリットを介して内部に格納可能になっており、使用時にスリットを介して乗員の膝部上に引き出されるようになっている。この場合、不使用時には、吸光シートをスリットを介して座席内に格納しておくことができる便宜が得られる。

10

【 0 0 1 1 】

(請求項 6 について)

吸光シートは、左右の辺部にファスナーを設けた複数の矩形布からなり、矩形布同士をファスナーを介して連結することにより、矩形布が使用対象物に応じた形状に組合せ可能となっている。

この場合、矩形布を適宜に組み合わせることにより、使用対象物に応じた形状に適合できて汎用性が増す利点がある。

【 0 0 1 2 】

(請求項 7 について)

吸光シートは、収納筒内にスクロール状となって心棒に巻回されている。使用に伴って吸光シートを収納筒から引き出し、使用後に心棒を回すことにより、吸光シートが心棒に巻き取られる。

20

この場合、使用後の吸光シートは、収納筒内に巻き取られて格納されるので、吸光シートを収納筒により携帯用として持ち運びできる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 3 】

本考案に係る遮光用敷布では、乗員の前方にあるウインドシールドガラスに対する使用対象物からの反射光を吸光シートで遮断する。このため、走行時に車室内の使用対象物から鏡面現象などにより、ウインドシールドガラスに反射光が生じることがない。これにより、乗員の視野が乱れず、良好な視野を維持するとともに、眼の疲労を軽減して安全運転に寄与する。

30

【 実施例 1 】

【 0 0 1 4 】

本考案の実施例 1 を図 1 に基づいて説明する。

車両 A に用いられる遮光用敷布 1 の吸光シート 2、3 は、例えば図 1 の (a) に示すように大小二枚に分かれている。吸光シート 2 は幅広な矩形状をなし、吸光シート 3 は細長い帯状を呈している。これら吸光シート 2、3 は、例えば発泡ゴム (E P D M)、フェルト、不織布あるいは混紡などを素材として黒系の色調で加工されている。

【 0 0 1 5 】

各吸光シート 2、3 の裏面には、後述するダッシュボード 5 に対する滑止め処理がゴム膜を含浸させることにより施されている。但し、吸光シート 2、3 の素材に発泡ゴムを用いた場合、滑止め処理は不要である。

40

【 0 0 1 6 】

車室 4 内の前方にはウインドシールドガラス 8 が設けられ、ダッシュボード 5 は、図 1 の (b) に示すように、助手席 6 から運転席 7 に対応して左右に延設されたものである。

ダッシュボード 5 を使用対象物とする場合、吸光シート 2、3 をダッシュボード 5 上で左右に並べるように敷きつめる。これにより、ダッシュボード 5 からウインドシールドガラス 8 に向かう反射光が遮断され、その反射光がドライバーとしての乗員 8 a に跳ね返ってこない。

【 0 0 1 7 】

50

この時、各吸光シート 2、3 の裏面が、載置面としてダッシュボード 5 上に接触しているので、前部座席におけるダッシュボード 5 に対する摩擦作用が大きくなる。このため、車両 A の走行時にダッシュボード 5 が揺れても、吸光シート 2、3 がダッシュボード 5 から滑り落ちることなく、吸光シート 2、3 の良好な載置状態を維持することができる。

【0018】

上記構成では、車室 4 内で乗員 8 a の前方にあるウインドシールドガラス 8 に対するダッシュボード 5 からの反射光を吸光シート 2、3 により遮断する。このため、車両 A の走行時にダッシュボード 5 から鏡面現象などに起因して、ウインドシールドガラス 8 に反射光が生じることがない。この結果、乗員 8 a の視野が乱れず、良好な視野を維持するとともに、眼を疲労から保護して安全運転に寄与する。

10

ダッシュボード 5 からの反射光を遮断するには、簡素な構造の吸光シート 2、3 を設けるだけでよく、製造費が安価になるため、吸光シート 2、3 の高い普及率が期待できて社会的意義も大きくなる。とりわけ、昼夜を問わず長時間運転する職業ドライバーにとって、吸光シート 2、3 は安全走行を確保する上で大きな意義を有するようになる。

【実施例 2】

【0019】

図 2 は本考案の実施例 2 を示す。実施例 2 が実施例 1 と異なるところは、細長スリット 9 をウインドシールドガラス 8 寄りのダッシュボード 5 に形成したことである。吸光シート 10 は、細長スリット 9 からダッシュボード 5 の内部にスクロール状に巻回されることにより格納可能に設けられている。吸光シート 10 の巻回状態は、吸光シート 10 の重量

20

に応じた弾性力を有するスプリング（図示せず）の付勢力に助けられて保持されている。

【0020】

吸光シート 10 の前側縁部には、細長スリット 9 の開口幅よりも幅広なストッパ片 10 a が一体に設けられている。これにより、吸光シート 10 の格納時、ストッパ片 10 a が細長スリット 9 の開口縁部に当接して吸光シート 10 の全体がダッシュボード 5 の内部に入り込まないようにしている。

【0021】

使用時、吸光シート 10 をスプリングの付勢力に抗して細長スリット 9 から引き出し、ダッシュボード 5 上に実施例 1 と同様に敷くことができる。不使用時には、吸光シート 10 を細長スリット 9 からダッシュボード 5 の内部 R に格納しておくことができる便宜がある。

30

【実施例 3】

【0022】

図 3 は本考案の実施例 3 を示す。実施例 3 が実施例 1 と異なるところは、吸光シート 11 が、座席 14 に着座する乗員 12 の膝部 12 a に載せる矩形の膝掛け部 13 を有することである。膝部 12 a が使用対象物となり、吸光シート 11 は、膝掛け部 13 の左右に形成した折曲辺部 11 a およびファスナー 15 を介して座席 14 の左右の側面部に着脱可能に設けられている。

【0023】

この場合、ウインドシールドガラス 8 に対する膝部 12 a からの反射光が遮断されるため、実施例 1 と同様な効果を奏する。なお、ファスナー 15 は、座席 14 の側面部に形成した多数の繊維ループ 15 b（あるいは係合繊維）と折曲辺部 11 a に設けた多数の係合繊維 15 a（あるいは繊維ループ）との係脱により着脱可能となる通常の装着構造となっている。但し、座席 14 側の繊維ループあるいは係合繊維については図示を省いている。

40

【実施例 4】

【0024】

図 4 は本考案の実施例 4 を示す。実施例 4 が実施例 3 と異なるところは、吸光シート 11 を、座席 14 の側面部に設けたスリット 16 を介して内部に格納可能となるようにしたことである。

50

吸光シート 11 は、折曲辺部 11a からスリット 16 を介して座席 14 内にスプリング（図示せず）の付勢力により巻き込まれている。使用時、吸光シート 11 は、スプリングの付勢力に抗して、スリット 16 から乗員 12 の膝部 12a 上に引き出されるようになっている。このため、不使用時には、吸光シート 11 をスリット 16 から座席 14 内に格納しておくことができる便宜が得られる。

【実施例 5】

【0025】

図 5 は本考案の実施例 5 を示す。実施例 5 が実施例 3 と異なるところは、吸光シート 17 を、左右の辺部にファスナー 15 を設けた複数の矩形布 17a から構成したことである。この吸光シート 17 では、矩形布 17a 同士をファスナー 15 を介して連結することにより、矩形布 17a が使用対象物に応じた形状に組み合せられるようになっている。この場合、ファスナー 15 は、相互に連結する際の便宜上、矩形布 17a における左右の辺部の表裏に設けられている。

10

【0026】

図 5 の（a）に示す使用例では、三枚の矩形布 17a を一列に連結して乗員 12 の膝掛け部として使用している。

図 5 の（b）に示す使用例では、五枚の矩形布 17a をコの字状に連結して乗員 12 の肩掛け部として使用している。この場合、矩形布 17a を適宜に組み合わせることにより、使用対象物に応じた形状に適合できて汎用性が増す利点がある。

20

【実施例 6】

【0027】

図 6 は本考案の実施例 6 を示す。実施例 6 が実施例 1 と異なるところは、吸光シート 2 を収納筒 20 内に収納可能に設けたことである。吸光シート 2 は、収納筒 20 内にスクロール状となって心棒 21 に巻回されている。

使用に伴って、収納筒 20 をダッシュボード 5 上にセットし、吸光シート 2 を収納筒 20 から引き出し、ダッシュボード 5 上に敷く。使用後、心棒 21 の先端に設けられた摘み部 21a を回すことにより、吸光シート 2 が心棒 21 に巻き取られる。

この場合、使用後の吸光シート 2 は、収納筒 20 内に巻き取られて格納されるので、吸光シート 2 を収納筒 20 により携帯用として持ち運びできる便宜が得られる。

30

【0028】

（変形例）

（a）上記の実施例 1～5 における各吸光シート 2、3、10、11、17 は、前部座席のダッシュボード 5、乗員 12 の膝部 12a および肩掛け部に適用したが、シフトレバーを内設するコラムパネル、フロントグリルや後部座席のダッシュボードなどに適用してもよい。

（b）実施例 1 では、吸光シート 2、3 の双方をダッシュボード 5 に敷きつめたが、吸光シート 2、3 のいずれか一方だけをダッシュボード 5 に敷くようにしてもよい。吸光シート 2、3 は矩形に限らず、各隅角を面取りしたり、使用状態や設置場所などに応じて所望の形状に形成してもよい。吸光シート 2、3 を黒系の色調で加工したが、裏面を緑や褐色などの色彩により着色し、裏面を表にしてダッシュボード 5 上に敷いてもよい。

40

【0029】

（c）吸光シート 2、3、10、17 は、ダッシュボード 5 などの使用対象物に対して磁石や吸盤を用いて吸着状態に載置してもよい。

（d）使用対象物からの反射光とは、使用対象物に直接入射して跳ね返る光源をはじめ、車室 4 内外の外観物（対向車両、建物、並木、看板など）から使用対象物に入射して跳ね返る反射光源を含むものである。

【産業上の利用可能性】

【0030】

本考案に係る遮光用敷布では、乗員の前方にあるウインドシールドガラスに対する使用対象物からの反射光を吸光シートで遮断する。このため、走行時に車室内の使用対象物が

50

ら鏡面現象などに起因して、ウインドシールドガラスに反射光が生じることがない。これにより、乗員の良好な視野を維持して安全運転に寄与する。

簡素な構造かつ安価な費用で安全運転に繋がる利点から、遮光用敷布の需要を喚起して部品などの製造・流通を介して化学・機械産業界に適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0031】

【図1】(a)は大小の吸光シートを示す斜視図、(b)は吸光シートをダッシュボードに敷いた状態を示す斜視図である(実施例1)。

【図2】吸光シートをダッシュボードに敷いた状態を示す斜視図である(実施例2)。

【図3】吸光シートを乗員の膝部に載せた例を示す斜視図である(実施例3)。

10

【図4】吸光シートを乗員の膝部に載せた例を示す斜視図である(実施例4)。

【図5】(a)吸光シートを乗員の膝部に載せた使用例を示す斜視図、(b)は吸光シートを乗員の肩掛け部に適用した使用例を示す斜視図である(実施例5)。

【図6】吸光シートを収納筒から引き出してダッシュボードに敷いた状態を示す斜視図である(実施例6)。

【符号の説明】

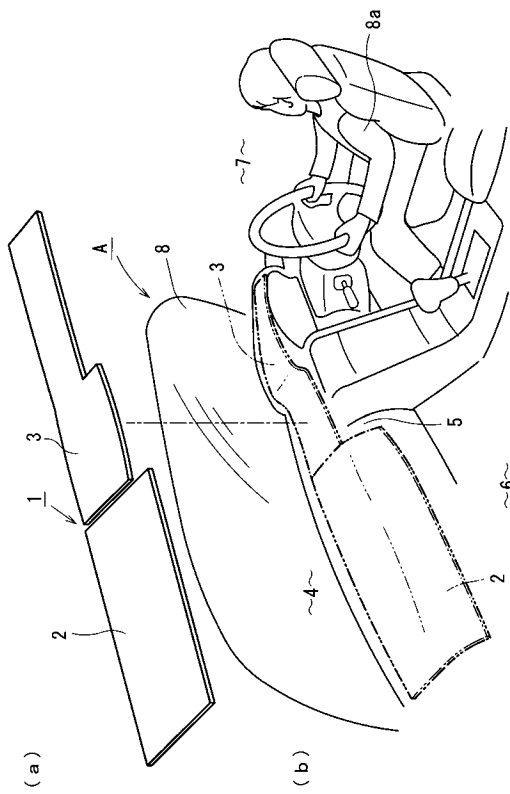
【0032】

- 1 遮光用敷布
- 2、3、10、11、17 吸光シート
- 4 車室
- 5 ダッシュボード(使用対象物)
- 8 ウインドシールドガラス
- 9 ダッシュボードの細長スリット
- 8a、12 乗員
- 12a 膝部(使用対象物)
- 11a 折曲辺部
- 13 膝掛け部
- 14 座席
- 15 ファスナー
- 16 座席のスリット
- 20 収納筒
- 21 心棒
- A 車両

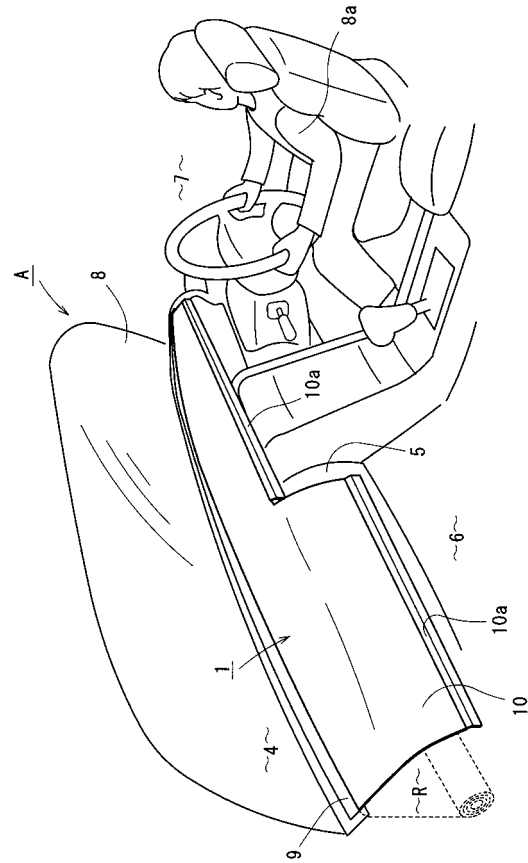
20

30

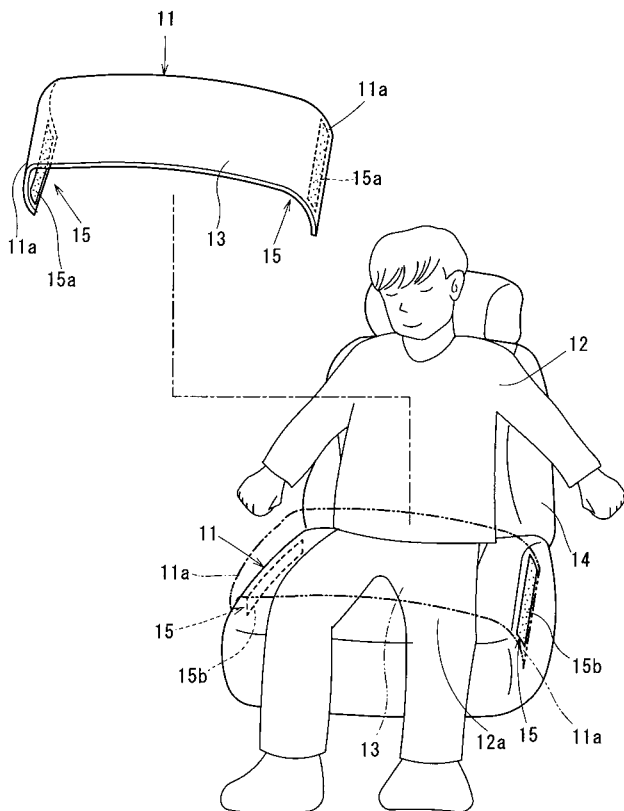
【図 1】



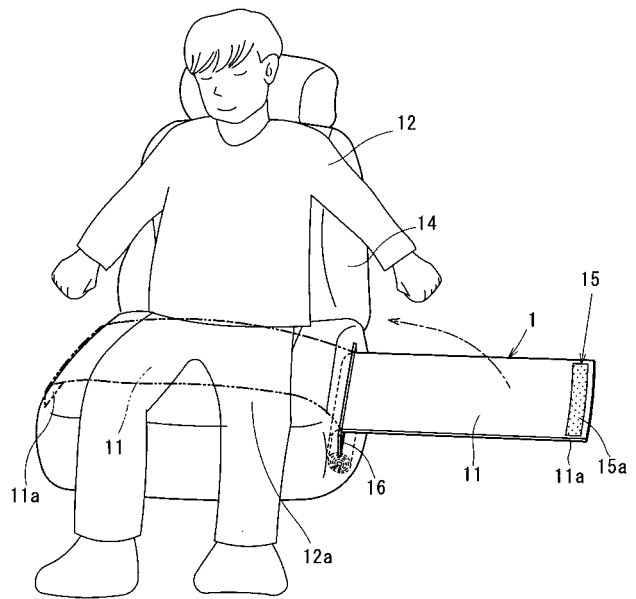
【図 2】



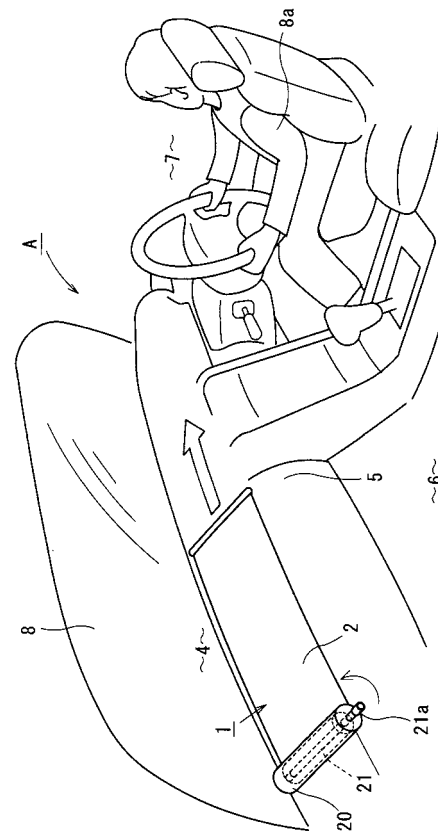
【図 3】



【図 4】



【 図 6 】



【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

(請求項 1 について)

本考案の遮光用敷布では、車室内で所定の使用対象物に敷かれて車室内の光を吸収し、黒系の色調を備え、車室内で乗員の前方にあるウインドシールドガラスに対する使用対象物からの反射光を遮断する吸光シートを有する。

この構成では、走行時に使用対象物から鏡面現象などにより、ウインドシールドガラスに反射光が生じることがない。このため、乗員の視野が乱れず、良好な視野を維持するとともに、眼を疲労から保護して安全運転に寄与する。

使用対象物からの反射光を遮断するには、簡素な構造の吸光シートを使用対象物に敷くだけでよく、製造費が安価になるため、吸光シートの高い普及率が期待できて社会的意義も大きくなる。とりわけ、昼夜を問わず長時間運転する職業ドライバーにとって、吸光シートは安全走行を確保する上で大きな意義を有するようになる。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 7 】

(請求項 2 について)

吸光シートは、車室内のダッシュボード上に敷かれるようになっており、その裏面には、含浸によりダッシュボードに対する滑止めとなるゴム膜を形成している。

このため、走行時にダッシュボードが揺れても、吸光シートがダッシュボードから滑り落ちることなく、吸光シートの良好な載置状態を維持することができる。